



美濃窯業株式会社
MINO CERAMIC CO.,LTD.

エコアクション21環境経営レポート

2022年度 活動結果
(2022年4月～2023年3月)

発行日 : 2023年10月4日



<目 次>

1. 組織の概要	1
(1) 名称及び代表者名	
(2) 事業所所在地	
(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先	
(4) 事業内容	
(5) 事業規模	
(6) 環境経営レポートの対象期間	
2. 認証・登録範囲(全組織・全活動)	2
○対象事業所	
○対象活動	
○事業所の紹介	
○エコアクション21推進組織	3
3. 環境経営方針	4
4. 環境経営目標	5
5. 環境経営計画	6
(1) 2022年度環境経営計画と取組の結果	
(2) 2022年度環境経営計画の成果について	7
6. 環境経営目標の実績	8
7. 環境経営目標及び環境経営計画の評価	9
8. 次年度以降の環境経営目標と環境経営計画	10
(1) 2023年度環境経営目標	
(2) 2023年度環境経営計画	
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	11
10. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果	12

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

美濃窯業株式会社

代表取締役社長 太田 滋俊

(2) 事業所所在地

本社事務所 : 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南1-17-28

TEL:052-551-9221 FAX:052-551-9231

瑞浪事業所 : 〒509-6121 岐阜県瑞浪市寺河戸町719番地

TEL:0572-68-2106 FAX:0572-68-2100

亀崎事業所 : 〒475-0027 愛知県半田市亀崎北浦町1-46

TEL:0569-28-0216 FAX:0569-28-2988

四日市事業所 : 〒510-0052 三重県四日市市末広町6-29

TEL:059-353-2136 FAX:059-353-2138

マテリアル事業部 : 〒509-7605 岐阜県恵那市山岡町原1532番地の8

TEL:0573-56-3107 FAX:0573-56-3190

東京営業所 : 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-16

TEL:03-3291-1711 FAX:03-3293-0346

九州営業所 : 〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-4-21 魚町センタービル5F

TEL:093-551-3553 FAX:093-522-4942

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 取締役 常務執行役員

管理本部長 兼 総務人事部長 長谷川 郁夫

担当者連絡先 : 内部監査室 水野 克久

TEL:052-551-9226 FAX:052-551-9231

E-mail:k-mizuno@mino-ceramic.co.jp

(4) 事業内容

耐火物の設計・製造及び耐火物施工体の設計・施工

工業窯炉と燃焼器の設計・製造・施工

プラント及びその機械の設計・製造・施工

工業用セラミックスの設計・製造

舗装・建設用骨材の製造

(5) 事業規模(2023年3月末時点)

売上高 11,851百万円

従業員数 274人

(6) 環境経営レポートの対象期間

2022年度(2022年4月から2023年3月)

2. 認証・登録範囲「段階的認証」

○対象事業所： 本社事務所、名古屋営業所、瑞浪事業所、亀崎事業所、四日市事業所
マテリアル事業部、東京営業所、九州営業所

○対象活動： 耐火物の設計・製造及び耐火物施工体の設計・施工、
工業窯炉と燃焼器の設計・製造・施工、プラント及びその機械の設計・
製造・施工、工業用セラミックスの設計・製造、舗装・建設用骨材の製造
耐火物・セラミックス用各種原料販売、各種セラックスの受託加工



○事業所の紹介

<瑞浪事業所>

■NC部(瑞浪工場)

高純度アルミナれんが、ムライト質れんが、景観材料の製造
キルンファニチャーの開発・製造及び各種受託業務

■プラント部

工業炉の設計・施工・運転管理の指導
省力化設備の設計及び施工
各種製品の自動搬送・自動積載・自動選別・自動検査装置の設計及び施工
各種製品の原料受入から出荷までの自動化設備

<亀崎事業所>

■亀崎工場

ハイアルミナれんが、不定形耐火物、大型キルンファニチャー等の製造

■技術研究所

耐火物、セラミックスの新技術開発・改良
工業炉の機能向上に関する研究開発等

■REエンジニアリング部

工業炉用耐火物の設計、施工

■NC部(亀崎生産課)

アルミナ、ムライト、ジルコニア、コーディエライト等酸化物系セラミックス製造
炭化ケイ素等非酸化物系セラミックス製造

<四日市事業所>

■四日市工場

クロムフリー塩基性れんが等の製造

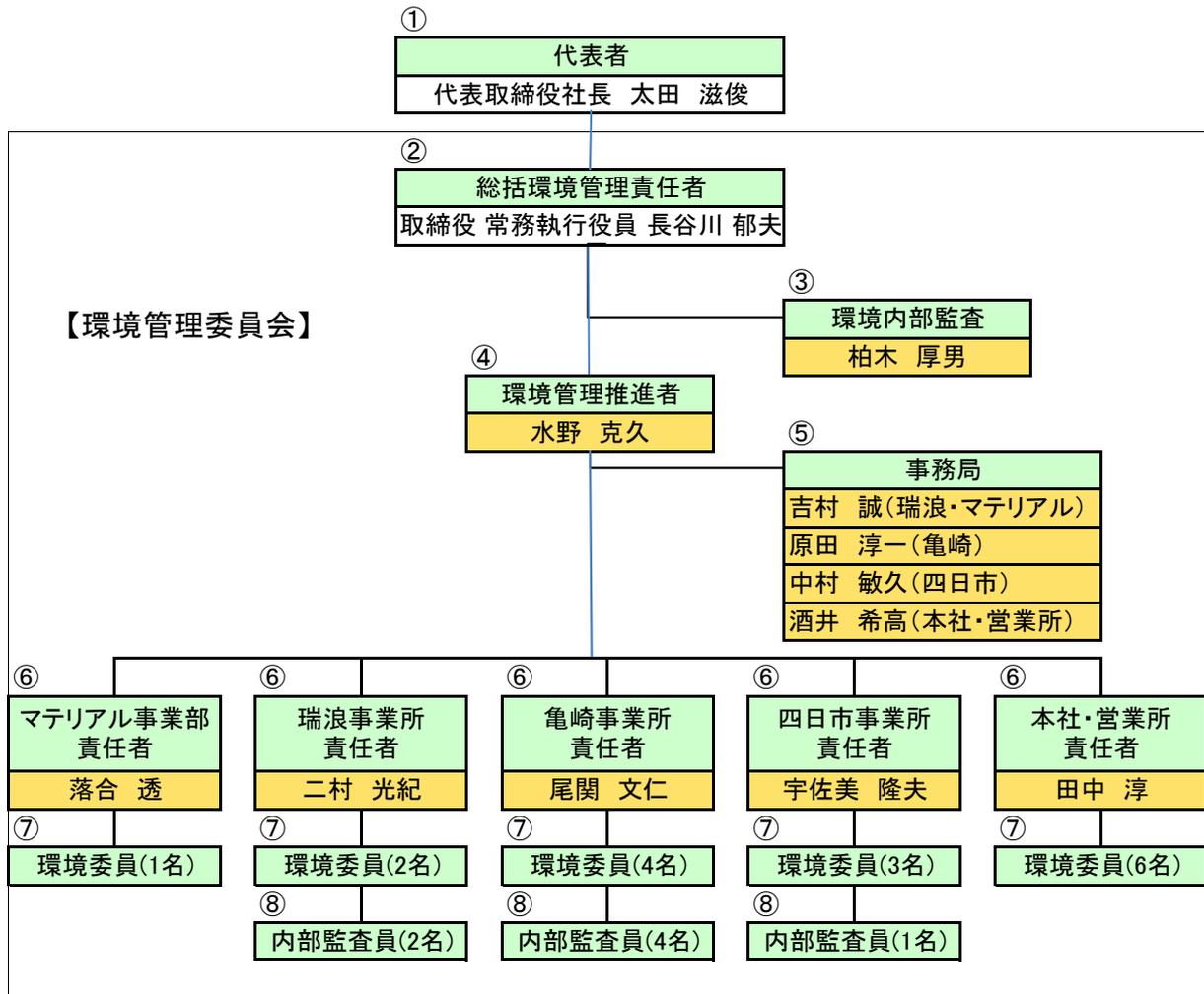
<マテリアル事業部>

■山岡工場

耐火物・セラミックス用原料販売、受託加工

○ エコアクション21 推進組織

更新日：2023/4/3



	役割・責任・権限		役割・責任・権限
①	全社環境方針策定 総括環境管理責任者を指名 資源(人・物・金)の用意 全社システム(体制)の確認 全体の評価と見直し・指示	⑤	事業所環境データの管理 システム運用上の事務管理 事業所目標・活動計画案の作成 事業所責任者へ実績報告 環境内部監査員も兼任
②	システム構築・運用・維持 環境管理推進者、事務局を指名 代表者への実績報告	⑥	事業所環境目標・活動計画の策定 環境委員を指名 教育・訓練の実施 事業所システム(体制)の確認 事業所の評価と見直し・指示
③	要求事項・ルールへの適合性 環境経営目標の達成状況 環境経営計画の実施状況 システムの継続的改善	⑦	事業所環境活動の推進 環境実績の記録、集計
④	事務局統括 全社環境経営レポートのとりまとめ 各事業所への連絡業務、活動推進	⑧	環境内部監査員 社内環境内部監査員資格取得者 環境委員の補助
全従業員	環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動に参加		

3. 環境経営方針

【環境理念】

当社は、東海3県に製造拠点をもち全国各地で営業活動を行う、セラミックス・耐火物およびプラント設備の総合メーカーとして、環境問題への取組みが企業の社会的使命と自覚し、地域の環境改善および地球環境の保全をめざして、事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組めます。

【基本方針】

当社理念の実現をめざし以下の方針を定め、環境保全に配慮した自主的な取組みを行います。

1. 環境との共存

当社の設計開発、製造、製品およびサービスが環境に与える影響を的確に捉え、環境経営目標を定めて環境負荷低減に取り組めます。また、環境改善に役立つ技術、製品を追求し、より良い環境づくりとエコアクション21環境経営システムの継続的改善を推進します。

2. 法規制の遵守

当社の製品及びサービスに係わる環境関連の法律、条例、その他の要求事項を遵守し、汚染の予防、環境改善に努めます。

3. 省資源、省エネルギーおよび節水の推進

省資源、省エネルギーによる二酸化炭素排出量の削減および節水に努めると共に、再資源化原料の有効活用を推進します。

4. 従業員の教育と啓発

環境経営方針は、全従業員に周知徹底を図り、環境保全及び環境改善に関する意識向上のため教育と啓発に努めます。

5. 開示

環境経営方針は、外部から要求があった場合は開示します。

制定 2003年5月16日

改定 2020年4月17日

美濃窯業株式会社
代表取締役社長 太田 滋俊

4. 環境経営目標

◎ CO₂原単位の削減（削減目標：1%/年）

亀崎工場および四日市工場では各県提出の地球温暖化対策実施状況書に基づき、生産量原単位にて年1%を削減目標とする。

	亀崎工場			四日市工場		
	CO ₂ 排出量 [ton]	生産量 [ton]	原単位	CO ₂ 排出量 [ton]	生産量 [ton]	原単位
2019年度(基準)	4,739	11,616	0.408	6,920	14,417	0.480
2020年度			0.404			0.475
2021年度			0.400			0.470
2022年度			0.396			0.466

NC部瑞浪工場およびNC部亀崎生産課では売上高原単位にて年1%を削減目標とする。

	NC部瑞浪工場			NC部亀崎生産課		
	CO ₂ 排出量 [ton]	売上高 [百万円]	原単位	CO ₂ 排出量 [ton]	売上高 [百万円]	原単位
2019年度(基準)	1,984	624	3.179	280	338	0.828
2020年度			3.148			0.820
2021年度			3.116			0.812
2022年度			3.085			0.804

※令和3年度 エバーグリーンマーケティング(株) 二酸化炭素排出係数(調整後) 0.435(kg-CO₂/kWh)を使用。

◎ 水使用量の削減（削減目標：2017年度～2019年度の平均値【基準値】から3%/3年）

	亀崎事業所			瑞浪事業所	四日市事業所	本社・営業	全社
	亀崎工場 (REエンジニアリング部)	NC部 亀崎生産課	技術研究所	NC部 瑞浪工場 (プラント部)	四日市工場	本社	
水使用量基準値 [m ³]	2,722	1,264	1,340	569	1,665	950	8,510

◎ 産業廃棄物排出量の削減（削減目標：2017年度～2019年度の平均値【基準値】から3%/3年）

	事業所			全社
	瑞浪	亀崎	四日市	
産業廃棄物排出量基準値 [ton]	30	394	173	597

※建設工事のプラント部、REエンジニアリング部の産業廃棄物は実態把握とする。

◎ 化学物質使用量・グリーン購入量（実績把握）

※化学物質は製品仕様に応じて使用量が決まるため、目標設定せず実績把握とする。

※グリーン購入についてはリサイクル資源(原料等)の購入量の実績把握とする。

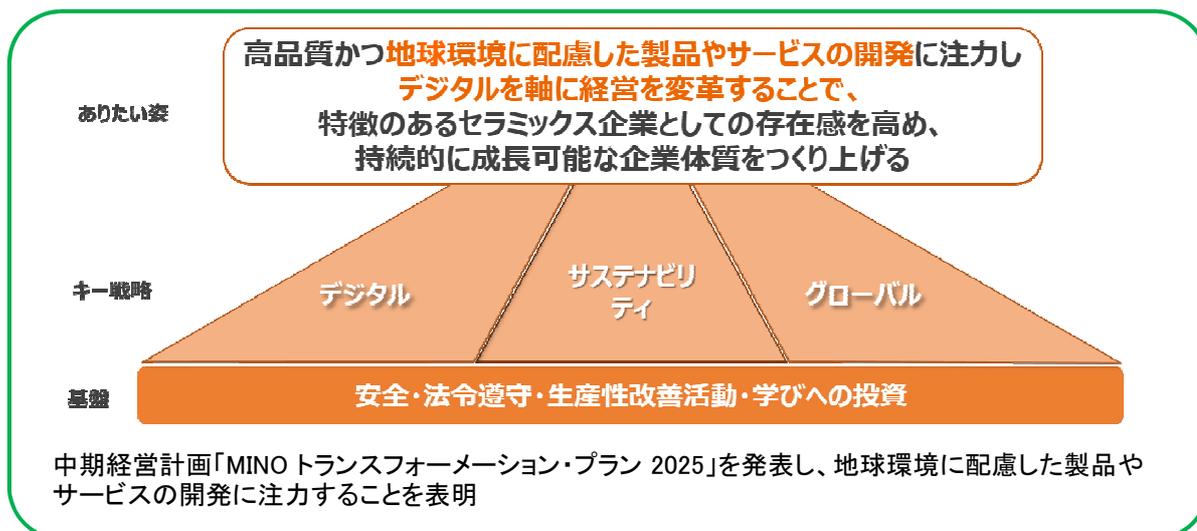
5. 環境経営計画

(1) 2022年度環境経営計画と取組の結果

対象部所	環境経営目標	環境経営計画と取り組みの手段
亀崎工場	① CO ₂ 原単位の削減 ② 水使用量の削減 ③ 産業廃棄物排出量の削減 【製品の環境負荷低減】	①-1 生産性向上:時間当たりの生産量の数値目標 171kg/(h・人) → 157kg/(h・人):結果
		①-2 17号TK生産原単位向上:1ton当たりのA重油使用量 138ℓ/ton → 146ℓ/ton:結果 ② 浄化槽の定期点検による適正管理、社員の意識向上 ③ 不良率の改善 I 2023年度より工場の主燃料を重油・LPGからLNGに転換し、バーナーの効率化も推進 II 可能な範囲で再生原料の製品へのリサイクル利用を促進
NC部 亀崎生産課	① CO ₂ 原単位の削減 ② 水使用量の削減	① 不良率の改善に伴う電力使用量の削減 ② クーリングタワーの定期管理による水使用量の削減
REエンジニアリング部	① 産業廃棄物排出量の管理 【製品の環境負荷低減】	① 産業廃棄物処理業者の適正管理 I CCUS(二酸化炭素回収・貯蔵・有効利用)に関するノウハウ獲得・展開 II 顧客設備内耐火物点検業務へのドローン活用等オープンイノベーションを積極利用した技術・サービス開発
技術研究所	① 水使用量の削減 【製品の環境負荷低減】	① 社員の節水への意識向上 I 不焼成れんが、ゲルボンドキャストブル等カーボンニュートラルに資する耐火物の開発 II NEDO「未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発」での新規ファイバーレス断熱材の開発による産業/工業炉の省エネ化
NC部 瑞浪工場	① CO ₂ 原単位の削減 ② 水使用量の削減 ③ 産業廃棄物排出量の削減	① 焼成台車混載によるガス使用量原単位の削減 ② 社員の節水への意識向上 ③ 不良率の改善
プラント部	① 産業廃棄物排出量の管理 【製品の環境負荷低減】	① 産業廃棄物処理業者の適正管理 カーボンニュートラル開発取り組み I 焼成設備向け水素バーナ等のCO₂排出量の削減および省エネに資する設備の開発 II 環境対策(NO _x 除去装置)開発
四日市工場	① CO ₂ 原単位の削減 ② 水使用量の削減 ③ 産業廃棄物排出量の削減	①-1 生産性向上:時間当たりの生産量の数値目標 287kg/(h・人) → 296kg/(h・人):結果
		①-2 16号TK生産原単位向上:1ton当たりのA重油使用量 143ℓ/ton → 137ℓ/ton:結果 ② 社員の節水への意識向上 ③ 不良率の改善
本社・営業所	① 水使用量の削減 【業務の効率化推進】	① 社員の節水への意識向上 業務のデジタル基盤の整備による生産性向上およびコスト削減

(2) 2022年度 環境経営計画の成果について

地球環境に配慮した製品やサービス開発に注力と表明



環境負荷の低減、資源の使用量削減

○OREエンジニアリング部:10月にドローンを用いた炉内耐火物状況のデータ化、れんが残存厚み測定に関する実証実験を実施しました。

○技術研究所:軽量、高断熱を併せ持った高性能断熱材の開発を行い、投稿論文「高強度・高断熱性ムライト多孔体の実用性評価」で耐火物技術協会より若林論文賞を頂きました。

○プラント部:高性能断熱材と高効率リジェネレイティブバーナーを組み合わせた次世代省エネルギー型工業炉を開発しました。

○経理部:RPA、VBAの積極活用、ソフトウェアの積極導入を行い、社内業務のペーパーレス化と効率化を推進しています。

○マテリアル事業部:ものづくり補助金を取得しました。大型ロータリーキルンの排熱を有効活用した乾燥炉の更新を進めております。(23年4月末に完成予定)



開発した次世代省エネルギー型工業炉



排熱活用の乾燥炉(ものづくり補助金取得設備)

働きがいのある職場環境

○総務人事部:産後パパ育休制度を全社で推進し、22年度は育児休業取得率100%を達成しました。(3名の男性社員が取得しました。)

○全事業所:従業員の安全確保および事業継続のため適切な対応を行えるように、全社で一斉に事業継続計画(BCP)に基づいたBCP発動訓練を初開催しました。

6. 環境経営目標の実績

◎ CO₂原単位の削減（削減目標：1%/年）

亀崎工場および四日市工場では各県提出の地球温暖化対策実施状況書に基づき、生産量原単位にて年1%を削減目標とする。

	亀崎工場			四日市工場		
	CO ₂ 排出量 [ton]	生産量 [ton]	原単位	CO ₂ 排出量 [ton]	生産量 [ton]	原単位
2019年度(基準)	4,739	11,616	0.408	6,920	14,417	0.480
2020年度	3,957	10,644	0.372	7,152	15,523	0.461
2021年度	4,605	12,675	0.363	6,841	15,545	0.440
2022年度	4,413	12,305	0.359	7,037	15,827	0.445
基準値比			88%			93%

NC部瑞浪工場およびNC部亀崎生産課では売上高原単位にて年1%を削減目標とする。

	NC部瑞浪工場			NC部亀崎生産課			マテリアル事業部		
	CO ₂ 排出量 [ton]	売上高 [百万円]	原単位	CO ₂ 排出量 [ton]	売上高 [百万円]	原単位	CO ₂ 排出量 [ton]	売上高 [百万円]	原単位
2019年度(基準)	1,984	624	3.179	280	338	0.828			
2020年度	1,095	419	2.613	171	241	0.710			
2021年度	1,648	552	2.986	241	354	0.681			
2022年度	2,155	765	2.817	282	307	0.919	2,250	550	4.091
基準値比			89%			111%			

※令和3年度実績 エパーグリーンマーケティング(株)二酸化炭素排出係数(調整後)0.518(kg-CO₂/kWh)を使用。

◎ 水使用量の削減（削減目標：2017年度～2019年度の平均値【基準値】から3%/3年）

	亀崎事業所			瑞浪事業所	四日市事業所	本社・営業	全社	マテリアル 山岡工場
	亀崎工場 (REエンジニアリング部)	NC部 亀崎生産課	技術研究所	NC部 瑞浪工場 (プラント部)	四日市工場	本社		
水使用量基準値 [m ³]	2,722	1,264	1,340	569	1,665	950	8,510	
2022年度 [m ³]	3,426	1,490	591	636	1,638	918	8,699	551
削減率	-26%	-18%	56%	-12%	2%	3%	-2%	

◎ 産業廃棄物排出量の削減（削減目標：2017年度～2019年度の平均値【基準値】から3%/3年）

	事業所			全社
	瑞浪	亀崎	四日市	
産業廃棄物排出量基準値 [ton]	30	394	173	597
2022年度 [ton]	41	449	157	647
削減率	-37%	-14%	9%	-8%

※プラント部、REエンジニアリング部の産業廃棄物量（実態把握）

	プラント部	REエンジニアリング部
2022年度 [ton]	275	1,051

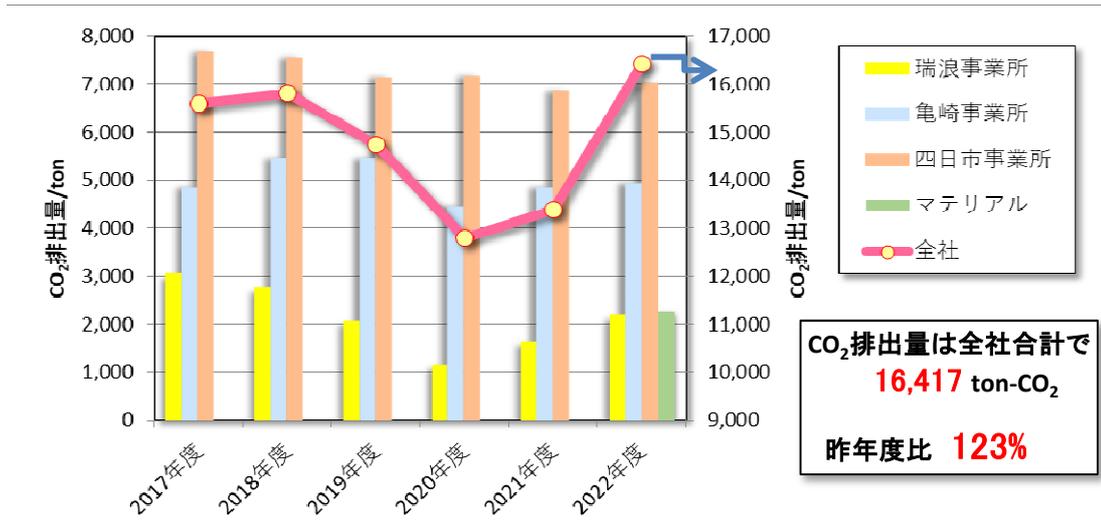
※
ピンク色着色部は目標未達成

◎ 化学物質使用量・グリーン購入量（実績把握）

	事業所			全社
	瑞浪	亀崎	四日市	
化学物質使用量 [ton]	0	213	17	230
グリーン購入量 [ton]	0	3,131	79	3,210

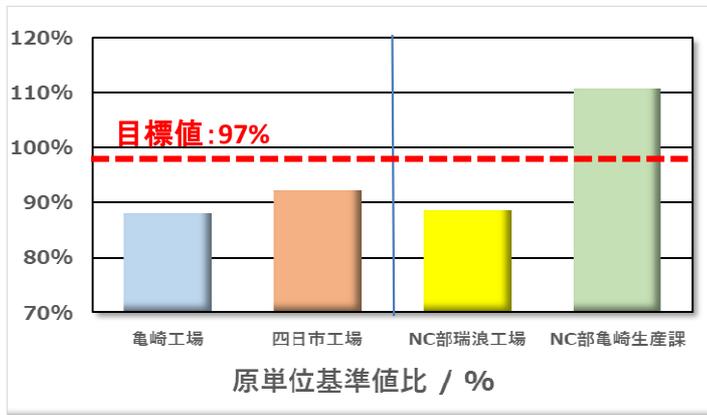
7. 環境経営目標及び環境経営計画の評価

◎ 二酸化炭素(CO₂)排出量の推移



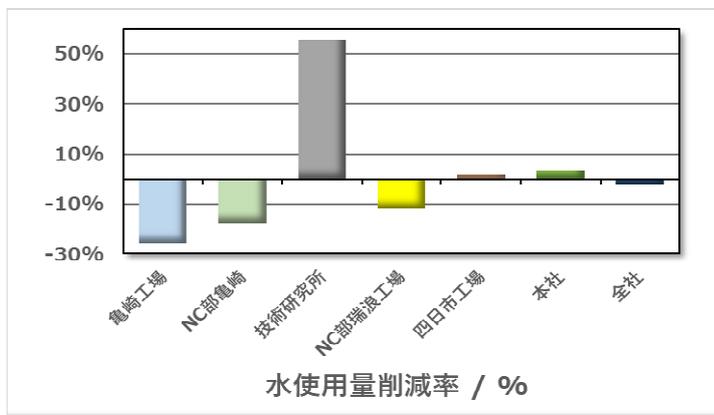
・マテリアル事業部の合併によりCO₂排出量が増加した。除いた場合でも106%と全体的に増加した。

◎ 2022年度のCO₂排出量原単位の基準値比



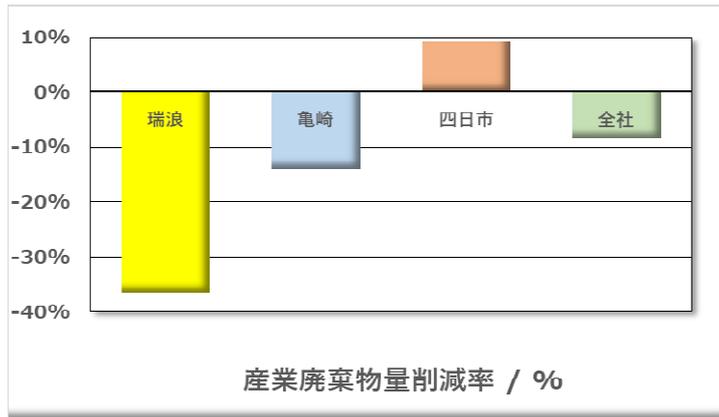
- ・生産量原単位におけるCO₂排出量の1%以上の削減は、亀崎工場88%、四日市工場92%となり、ともに達成した。
- ・売上高原単位におけるCO₂排出量の1%以上の削減は、NC部瑞浪工場89%、NC部亀崎生産課111%となり、NC部亀崎生産課で未達となった。

◎ 2022年度の水使用量の基準値に対する削減率



- ・水使用量の削減率は、全社平均で-1%と目標未達成となった。亀崎工場、NC部亀崎生産課、NC部瑞浪工場の水使用量増加が原因であり、

◎ 2022年度の産業廃棄物排出量の基準値に対する削減率



- ・産業廃棄物排出量は瑞浪工場、亀崎工場で削減が未達、全社平均削減率は-8%となった。
- ・瑞浪工場、亀崎工場では搬出タイミングと不要物の廃棄で産業廃棄物排出量が増加した。

8. 次年度以降の環境経営目標と環境経営計画

(1) 2023年度以降の環境経営目標

2022年度の会社全体のCO₂排出量は前年と比べ大幅に上昇した。主にマテリアル事業部の合併によるものであるが、瑞浪工場の生産量の増加に伴う上昇も大きく影響した。

原単位はNC部亀崎生産課で主要製品の変遷があり未達となったが、残りの事業所では削減目標を大幅に超える達成となった。

水使用量は亀崎事業所、瑞浪事業所で削減目標未達、また産業廃棄物は瑞浪事業所、亀崎事業所で削減目標未達となった。水使用量は亀崎事業所は加工品の増加、瑞浪事業所は生産量の増加により未達成となった。産業廃棄物は亀崎事業所は5S活動の実施による不要物の廃棄、瑞浪事業所は搬出のタイミングで増加し削減未達成となった。

次年度はマテリアル事業部が増えた体制で新たな計画が開始されることから、改めて全社一丸となって削減目標を設定し、目標向かい邁進する体制とする。

【環境経営目標】

- ・CO₂排出量の削減
(生産量原単位：亀崎工場、四日市工場)
(売上高原単位：NC部瑞浪工場、NC部亀崎生産課、マテリアル事業部)
- ・産業廃棄物排出量の基準値に対する削減 (瑞浪、亀崎、四日市工場、マテリアル事業部)

(2) 2023年度以降の環境経営計画

- 5, 項 環境経営計画にマテリアル事業部を追加し継続して実施する。
なお、環境経営計画の数値目標に関しては、年度毎に更新する。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

各事業所の法令一覧表に基づき年間1回の遵守評価を実施した結果、違反はありませんでした。また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、訴訟等はありませんでした。

法律、条例	要求事項	遵守状況				
		瑞浪事業所	亀崎事業所	四日市事業所	マテリアル事業部	本社営業所
大気汚染防止法 (特定工場における公害防止組織の整備に関する法律)	ばい煙発生施設の設置届 汚染濃度測定 (公害防止管理者)	○	○	○ (○)	○	/
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物管理票交付等状況報告書 廃棄物の適正処理等に関する条例	○	○	○	○	○
騒音規制法	規制基準の遵守 特定施設の設置届出書	○	○	○	/	/
振動規制法	規制基準の遵守 特定施設の設置届出書	○	○	○	/	/
消防法	消防用設備等点検結果報告書 防火管理者選任(解任)届出書 炉の設置届出書	○	○	○	○	○
フロン排出抑制法(フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律)	機器廃棄の際の回収・破壊 簡易点検	○	○	○	○	○
労働安全衛生規則	機器の定期・特定自主検査 雇入時、定期健康診断	○	○	○	○	○
粉じん障害防止規則	特定施設の届出 作業環境測定	○	○	○	○	/
工業用ガス保安指導要綱	工業用液化石油ガス保安監督者届出 受講証明書 工業用ガス設備定期自主検査	○	○	/	/	/
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	低濃度PCB廃棄物等の保管状況等届出書	/	/	○	/	/
家電リサイクル法 (特定家庭用機器再商品化法)	廃棄時、再商品化が確実に実施されるように収集・運搬者へ引渡	○	○	○	○	○
省エネ法 (エネルギーの使用の合理化等に関する法律)	定期報告書 中長期計画書	○	○	○	○	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガス排出量定期報告書	○	○	○	○	○
PRTR法(化学物質管理促進法)	第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書	○	○	○	/	/
労働安全衛生法	化学物質のリスクアセスメント	○	○	○	○	/
水質汚濁防止法	水質測定結果	○	○	/	/	/
浄化槽法	保守点検と清掃 指定検査機関が行う水質に関する検査	/	○	/	/	/

○ = 2022年度までの確認で問題無し

10. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

確認日：2023/10/4

評価者		代表取締役社長 太田 滋俊
評価項目		評価コメント・変更の必要性
環境経営方針		変更は無い。
環境経営目標の達成状況	二酸化炭素排出量の削減 ①生産量原単位の削減 (亀崎、四日市工場) ②売上高原単位の削減 (NC部瑞浪工場、亀崎生産)	2020年度より実施した三カ年目標は最終年度となった。二酸化炭素の削減目標は、それぞれの事業所で実態に合う原単位での目標とし、主要3工場で目標を大幅に上回る結果を達成した。しかし、NC部亀崎工場生産課は製造品種の変化により未達となった。次期目標は、マテリアル事業部の影響、亀崎工場のLNG化など変動要因が多いことから注意が必要である。
	水使用量の削減 (全事業所)	亀崎工場とNC部亀崎生産課、瑞浪工場で削減目標未達成となった。原因は生産量の増加と品種の変化によるものとのこと。節水の意識付けと合わせ、新たな節水方法について検討すること。
	産業廃棄物量の削減 (亀崎、四日市、瑞浪工場)	四日市工場は工程中の原料ロスの削減を行い、効果が見え始めているが、亀崎工場と瑞浪工場は産業廃棄物量の削減目標が未達成となった。生産量の増加と5S活動による不要物の廃棄によるものであるが、継続して仕損率の低減を行い産廃量削減に努めること。
	総評	二酸化炭素排出量の削減が重要テーマである。次年度からの新三カ年目標では全員参加で新たな目標を設定して達成を目指すこと。
環境経営計画の実施状況		各部所で環境経営目標と共に環境経営計画に【製品の環境負荷低減】を策定している。本年度はプラント部の取組の成果である省エネ炉が開発された。次年度以降も継続して、全員参加でPDCAを回して成果を出すこと。
環境関連法規等の遵守状況		現状は特に問題はない。改正された法律・規制等確実に反映させ、遵守すること。
実施体制の見直し		現状は特に問題はない。マテリアル事業部を加えたエコアクション21組織で進めること。
全体評価と環境マネジメントシステム		二酸化炭素排出量は原単位では改善しているが、総量は生産量に比例しているため直ぐには解決は難しいが、2023年度に亀崎工場で燃料のLNG転換を計画しており、二酸化炭素排出量削減に寄与できるものと期待している。加えて生産性向上プロジェクト「MDC活動」も継続推進して、生産効率を向上させ、環境負荷低減を図ること。環境マネジメントシステムはガイドラインに沿って機能していると判断されるので変更の必要はない。自社の環境負荷軽減に限らず、製品開発・販売を通して製品使用時の環境負荷低減を進めること。

エコアクション21の取組みを通して SDGsの目標達成に貢献していきます

